スイス日本語福音キリスト教会

JEGニュースレター150号

www.jegschweiz.com　　２０１５年３月２０日発行

小さな証

夢にも思わなかった海外での生活が、58歳で始まったのは、私を胎内に作られたお方のご計画でした。 P２

在欧21年膝栗毛

21年に渡る欧州での宣教は、アウトバーンと車なしには為し得なかったこと、その珍道中がいま明かされます。 P5

ことばの花束

ユニークで暖かな田辺牧師ご夫妻を慕い愛した世界各地の兄弟姉妹からの贈ることばの花束。 P6から

被災地からの報告

東日本大震災から今年で４年、瓦礫の中から立ち上がり、風化と闘う被災地に生きる人々のレポートです。 P9.10

小さな祈り

私に、あなたからの声を聞き分ける
知恵を与えてください。
自分の思いでいっぱいの心に、
どうかあなたの御声を
とどろかせて下さい。
どうぞ、私を憐れんでください。

主を喜ぶことは、あなたがたの力です。

ネヘミヤ８章１０節(口語訳)

ちいさな証

欧州在留２１年、私の信仰生活

田辺みや子
フランクフルト日本語福音キリスト教会

1993年7月15日。私が58歳のとき、まさに「みちびき」としか思えない海外生活が始まったのです。私を胎内に作られた方（詩篇139:15、16)のご計画だったのでしょう。それから、今日まで約二十年という考えられない程の長い日々が過ぎていきました。日本にいた頃には考えてみたこともない大小様々な経験をさせていただきました。

信仰は望んでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させるものです。　ヘブル11：１

ないようであるのが罪で、あるようで無いのが「信仰」だといわれています。私も自分を含め同感です。「目に見えないもの」とは？あるとき、納得できたのです。それは神ご自身だ！ということを。神様は、聖書のあらゆるところでご自身を知る事を求めていらっしゃいます。

わたしは誠実は喜ぶが、いけにえは喜ばない。全焼のいけにえより、むしろ神を知ることを喜ぶ。　ホセア６：６

有名なマタイ７：７もこれで納得できたのです。求めなさい（続けなさい）。

私の信仰生活もまさに主を求めることにあったのだということが分かったのは、そんなに昔のことではありません。そうなのです。今回の本帰国が決まったことが、このことをより確かなことにしたのかもしれません。

神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです。　ピリピ2:13

私が母の胎内にいるときから、いいえ、その前から私を知っていてくださる主のご計画が、実現したのだとか思えないのです。（詩篇139:16)

ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。そして、私に対するこの神の恵みは無駄にはならず、私はほかの使徒たちよりも多く働きました。しかし、それは私ではなく、私にある神の恵みです。私の小さな、小さな志を立ててくださった主が、今回の帰国という大きな決断に導き、すべてを主のみ手の中でお導きくださったことを確信し、心から主の御名を崇めています。

人間の心を探り窮める方は、御霊の思いが何かをよく知っておられます。なぜなら、御霊は、神のみこころに従って、聖徒のためにとりなしをしていてくださるからです。

神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくだっさることを、私たちは知っています。　ローマ　8：28

わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。 ヨハネ14:６　と、あります。

御子イエス・キリストがお生まれになったことを知った東方の博士たちのように、私は、聖書のみことばに導かれて今日に至りました。

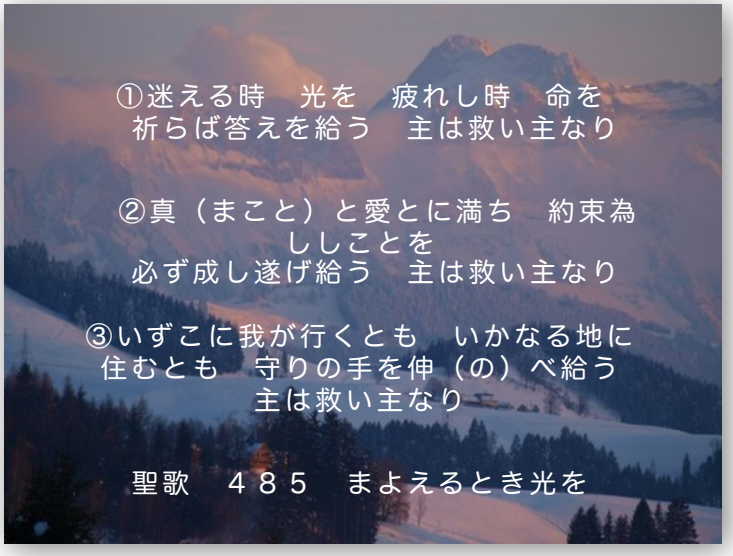
あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です。　詩篇119:105

これからの日々も、あなたの行く所どこにおいても、主を認めよ。そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。　箴言３：６

とみことばにあるように、主の導かれる御手、導きの光ある所に従って行きたいと願っています。

これまでの私の歩みを導いてくださったみことばは、数えきれない程あるのですが、お一人お一人に、備えられているみことばは、必ずある筈です。それを信じて、みことばをひとつ、賛美のひとつをもって終わりたいと思います。

いま私は、あなたがたを神とその恵みのみことばに委ねます。みことばは、あなたがたを育成し、すべての聖なるものとされた人々の中にあって御国を継がせることができるのです。　使徒20:32



１、２月８日（日）、スイスJEGにおける最後の御奉仕として田辺牧師に「最初のしるし」をテーマにヨハネ２：１−１１からメッセージを取り次いでいただきました。30歳のイエス様が始められた公生涯の最初の奇跡が、ナザレの北にあったカナでの結婚式においてでした。大勢の婚姻の客の中で、朗らかに楽しく振る舞われるイエス様の笑顔が容易に想像出来るような田辺牧師の解き明かしでした。

通訳は、少年の頃から田辺先生を良く知るマイヤー牧師によってなされました。この日の説教は、スイスJEGのメッセージ・サイトで日独両語でお聴き頂けます。http://jeg.meielisalp.ch/

礼拝後の愛餐会では、田辺先生ご夫妻のこれまでのスイスのみならず、広くヨーロッパの各日本語教会においての尊いお働きに感謝し、ささやかな送別会を催しました。www.youtube.com/watch?v=AMncLemAqCs（５分）でその様子をご覧頂けます。

また、記録ビデオ”田辺牧師とスイスJEGの１０年”が上映され、そのDVDはご夫妻に記念として贈られました。このビデオもwww.youtube.com/watch?v=rrrTsx9Nv20　（35分）でご覧頂けます。ご夫妻は、その後、スイス東部の山岳地帯アッペンツェラーランドに向われ、白い世界とスイスの大自然を心ゆくまで楽しまれた後、翌日、ダルムシュタットにお帰りになりました。

２、新役員会によって次の兄姉が世話人会メンバーとして選任され、礼拝や伝道の企画他、多種多様な御奉仕にあたって、神の体である教会運営ならびに礼拝準備に携わって下さることになりました。トムセン・ハンス兄（会長、新）、トムセン千香子姉（新）、クスター節子姉、今村葉子姉、原しのぶ姉、ヘス明美姉、ヴァイランド千佳姉、フォンプランタ美和子姉、トムセン・チャーリー兄(新)世話人には多くの時間とエネルギーの要る御奉仕をしていただきます。また、スイス日本語福音キリスト教会創立以来、世話人として今日まで尊いお働きをしてくださったクンツ・ルツ師は、次世代に役目を譲るため世話人を辞退されました。これまでの献身的なお働きに心から感謝いたします。

２月２２日、３月８日の愛餐会でのスナップから。３月８日には、宮崎からローゼンクランツ宣教師ご家族を迎えました。

３、2016年に南独シュバルツヴァルドで開かれるスイス日本語福音キリスト教会主催の第33回　ヨーロッパ・キリスト者の集い（2016年７月27日から31日まで）のテーマが”み国を待ち望む”に決まりました。

主題聖句：これらのことが起こり始めたなら、からだをまっすぐにし、頭を上に上げなさい。贖いが近づいたのです。そのように、これらのことが起こるのを見たら、神の国は近いと知りなさい。 ルカ21：28、31　この時代にキリスト者として生きる私たちは、イエス・キリストがマタイ24章、ルカ21章、また多くの聖句において予言された出来事の成就を見守っていると言っていいでしょう。全世界に紛争が拡がり、政治、経済、社会とあらゆる分野において動揺と不安が生じ、聖書に予言されている通りにイスラエル人が全世界から帰り国家を再建し、福音が全世界に伝えられつつあります。この歴然たる事実にも拘わらず、多くの人々はこの時代の”しるし”を見分けずに生きています。今回の集いでは、テーマを基に三つのことを追究したいと思います。参加者はみ言葉によって、・この時代のしるしに目を留め、それらを見分けることができるように。・キリストの再臨を覚え、み国を待ち望む信仰生活ができるように。上を見上げ、霊的に励まされ、信仰が強めらるように。

３月８日には、実行委員が集まり、来年の”集い”にむけてキックオフがなされました。前回の2006年スイスでの集いに向けての第１回実行委員会が開かれたのが2004年10月24日でしたので、４ヶ月遅いスタートですが、主の導きのもと、スイス日本語福音キリスト教会一同、心を整え一致を計り、創意と独立性を重んじながら準備作業を進める所存です。ご支援とお祈りをお願いします。

４、今年の第32回　ヨーロッパ・キリスト者の集い（HP www.europetsudoi.net　は、７月29日（29日はSLIMによるプレ大会）から８月２日まで、世界遺産の街、チェコ・プラハで開かれます。この集いには、毎回欧州各地や日本から250名を越えるクリスチャンが集い、神の家族としての貴重な交わりのときを持ち、霊的成長に繋がるメッセージを聴きます。一人でも多くの方がこの素晴らしい集いに参加されますよう願っております。参加希望者は４月６日から20日までに今村泰典兄にお申し込み下さい。yimamura1019@gmail.com

５、田辺正隆牧師ご夫妻は３月12日フランクフルトを発ち、無事帰国され、新任地、奥多摩福音の家での働きを始められました。ケルン・ボン日本語キリスト教会の斎藤篤牧師ご夫妻は、3月24日(火)、フランクフルト空港から発たれます。ウィーン日本語キリスト教会の高木攻一牧師ご夫妻は、３月３１日ウィーンを発たれます。次々と、欧州邦人宣教の重責を担われてきた教職者の本帰国が相次ぎ、欧州での霊的欠如が懸念されますが、この間、欧州や日本からの教職者の奉仕者でその空白を埋める営みが予定されていますので、どうか、お祈りのなかに覚えてくださるようお願いします。尚、高木牧師ならびに斎藤牧師の離任のご挨拶が８Pに掲載されています。

６、オーニンガー宣教師、クンツ・プリスキラ宣教師、ラシェンコ・ベラ宣教師、マルティン・フィリップ祐子宣教師からのRundbrief 、工藤篤子メルマガ 、井野葉由美メルマガ号、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語キリスト教会月報、ケルン・ボン日本語キリスト教会月報、ルーマニア川井牧師の週報、ブリュッセル・ミサ便り、パリ・プロテスタント日本語キリスト教会パルタージュ、イザール通信、夜越山からの便り、ミッション”宣教の声”、ハーベスト・タイム・ミニストリー「今週の視点」が届いています。お読みになりたい方は、松林までご連絡ください。

欧州の日本語教会より

皆様の篤い祈りと支援に感謝します。

ウィーン日本語キリスト教会牧師
高木攻一

主の御名はほむべきかな！

ウィーン宣教の幕が閉じられようとする今、「主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな」ヨブのあの告白が、私の思いをよぎります。置かれた状況は全く違うのですが、ウィーン宣教の機会を授けてくださった主が、それを私たち夫婦から取られることで、私の思いは主への賛美で溢れるのです。

ウィーン日本語キリスト教会前任者の石川秀和師からの声かけを受けてから、２００６年～２０１５年にかけて準備期間も含めると、１０年の歳月が過ぎようとしています。ヨハネ１５章１６節をウィーン宣教召命のお言葉として確信して以来、この働きにお召しくださった主の真実のゆえに、私は心から栄光を主に帰したいと思います。

出発当時、日本人の海外在住者は100万人を越え、今や150万人と言われます。ウィーン市に赴任して初めて、海外在住邦人の直面する霊的な必要性を痛感させられ、至らぬ私たち夫婦が少しでもその必要に応じることができたとするなら感謝なことです。ウィーンでの働きと並行して毎夏催される欧州キリスト者の集いに参加させていただき、教団教派、教理の違いを越えて喜びに満ち溢れて互いに交わる現実を見せられ、改めて教会の何たるかを再考させられました。

主は一つ、信仰は一つ、教会は一つとの思いがこれほど強められたことはありません。また、欧州在のJCFに各地で奉職される教職者のみなさんとも年一回の研修会で顔を会わせることが大きな楽しみ、励ましとなり、どれほど感謝したか知れません。１０年前に赴任したとき６０歳であった私は今７０歳を間近にし、働きの拠点を日本に移行するところであります。果たしてこのような晩年に何ができるか心もとないのではありますが、召してくださる主の御手に委ねて前進する所存であります。

大阪府泉佐野市東羽倉崎７－１に所在する泉佐野福音教会に４月１日付けで赴任いたします。すぐ目の前に関西空港が海上に見える位置にありますので、是非皆様にもお立寄りいただければ嬉しいかぎりであります。この10年間、私たちの宣教使命に共感くださり、継続支援くださった多数の方々に御礼を申し上げます。これは真に教会の業、共同の業でした。皆様のご協力と篤い祈祷無しにはありえない神の働きでした。感謝しております。

欧州における主の交わりに感謝します。

ケルン・ボン日本語キリスト教会牧師
齋藤篤

主の御名があがめられますように。

ケルン・ボン日本語キリスト教会牧師の齋藤篤です。欧州にあって日本語による福音宣教の業にともにあずかり、働き、祈ることのできる幸いを、心から感謝申し上げます。今回、ニュースレターの紙面を借りて、私の動向についてお知らせする機会を戴きましたので、私の近況や教会の動向について書かせていただきます。

最初に、私の動向についてです。当初より2015年3月までの3年間の任期で、ケルン・ボン日本語キリスト教会での務めにあたってきましたが、結果としても任期を延長せずに日本へ帰国することになりました。その間、任期延長を望む教会内外の温かい励ましや、欧州で引き続き宣教するための道が可能性として存在していましたが、結果的に主は欧州で働くのではなく、日本での働きを示された次第です。私自身、主の指し示される道を受け入れることに逡巡しましたが、今は素直に、そして前向きに喜びつつ、主の御心によって歩んでいこうと思っています。

私は来る4月より、東京都世田谷区にある、日本基督教団深沢教会の牧師として、牧師となった妻とともに招聘されることになりました。このことが決まる過程でも、主はくすしい御業を示されました。私が欧州の日本語宣教の一端に関われるように整えてくださいました。その詳細は改めて書きたいと思いますが、ハレルヤ！と叫ばずにはいられない出来事であったことは確かです。その一つとして、今夏のキリスト者の集いにも、中高科担当者として参加いたします。

ケルン・ボン日本語キリスト教会の後任者のことについても触れなければなりません。当教会は、2015年4月から1年間、無牧体制で教会の歩みを営むことになりました。その間に、私も含む数名の牧師によって日曜日の礼拝が執り行われます。私は動画を配信することで礼拝に参加いたします。インターネットを用いた、最新の礼拝を行えることも、主の導きであると信じて、行ってまいりたいと思います。良き後任者が与えられますように、お祈りくだされば幸いです。また、もう一つの教会、ブリュッセル日本語プロテスタント教会の動向についても、報告しなければなりません。

ブリュッセル日本語プロテスタント教会は、昨年の10月をもって岡田直丈牧師が退任され、11月からは齋藤が牧師代務者として、礼拝と教会の運営にあたってきました。当教会も、今後牧師を迎えるための準備が着々と進んでいます。ケルン・ボン日本語キリスト教会と同様、2016年春の牧師招聘を目指しています。4月から1年間は、ブリュッセル日本語プロテスタント教会の所属団体であるBEM(ベルギー福音宣教会)の諸先生方、欧州日本語教会の諸先生方、そして日本より私が動画による礼拝メッセージを担当します。次期牧師が招聘されるまでの間、私が日本よりブリュッセル日本語プロテスタント教会に関わることになりました。当教会のためにも、引き続きのお祈りをよろしくお願いいたします。

最後に、欧州における主にある交わりを戴けたことを、妻ともども深く感謝する次第です。これからも場所は違えども、欧州の日本語による宣教のために、引き続き祈る者でありたいと願います。恐らく今後も、皆さんとお会いできる機会があることでしょう。そのことをこれからも楽しみにしたいと思います。　感謝とともに。

在欧21年、車での膝栗毛

田辺正隆

1.　私は迷いの名（迷）人

事の始まりはノルウェーのオスローでの「ヨーロッパ・キリスト者の集い」に向かった時のことでした。デンマークの港からフェリーで対岸のスエーデンのヨーテボリーに着きました。時は薄暗くなりかけた夕暮れ時でした。予約していたユースホステルがなかなか見つかりません（未だナヴィのない時代でした）。日はどっぷりと暮れ、真っ暗闇の中を実に二時間近く走り続けました。同行、同乗していた家内の教え子家族には不安な思いをさせました。明かりが点いていたホテルが見つかり尋ねると、目的のユースホステルはその直ぐ近くにありました。主に感謝しました。

「望むものを手に入れるために必要なのは忍耐」ですね。

それから、毎年「集い」に行くたびに道に迷いました。その話を「集い」の説教の導入として毎年話しました。すると、家内が「もう迷う話は止めたらどう？！」と言います。従順な私は「迷いの話」を止めました。すると、どうでしょう。説教が終わった後、多くの兄弟姉妹が「先生、どうして迷ったお話をされなかったのですか？今年は迷わなかったのですか？」と尋ねてこられました。実は、その年も迷ったのですが・・。「ああ、兄弟姉妹は私のメッセージより迷った話を期待しておられたのか！？」と心に迷いが生じました。しかし、ナヴィが出てから道の迷いも心の迷いも解消しました。

2.　「私、何処にいるの？」

家内は２１年前、ドイツに来る数か月前に車の免許を取得しました。最初は高速の運転はビクビクでしたが、そのうちにかなりのＳｃｈｎｅｌｌｆａｈｒｅｒ（スピードを出して走る人）になりました。それはともかくとして、ある時、家内は日本から訪ねて来た姉と二人でスイスに車で行きました。

しかし、帰りにバーゼル市内で道に迷ってしましました。ダルムシュタットの自宅にいる私に電話がかかってきました。「パパ、道に迷ってしまった。道を教えて！」「分かった。ところで、ママは今、何処にいるの？」「それが分からないの。仕方ないわ。探しながら行くわ。」家内は走り回っているうちに、見慣れた高速の標識を見つけ、無事に帰って来ました。

また、アウトバーンに制限速度のないドイツから、国境を越えスイスに入っても同じ調子で走るのでよく”ピカッ”という稲妻が光ったものです。私は余りに幾度も罰金を払ったのでスイスの財政に大いに寄与したつもりですが、財務省や警察から感謝状をいただいたことは一度もないのです！

人生の道に迷ったとき、自分が何処にいるのか分からなくなった時、頼りになるのは聖書のみことばですね。家内は日頃みことばに導きを求めていますが、迷ったときは見慣れた高速の標識に助けられました。「みことばは足のともしび、道を照らす光です。」

３．「あなた、牧師さんですよね！」

2000年から10年間、スイス日本語福音キリスト教会の牧師として奉仕しました。月に２回、第２と第４の日曜日を中心に月に計８日ほどスイスに滞在して数カ所で家庭集会をしていました。

スイスはＥＵに加盟していませんので、国境を通過するとき検問を受けることがあります。スイスに入る時はバーゼルの国境を通ります。第４週は月曜日の午前にウスター（礼拝を行っている町）の教会で集会をし、その夜ボーデン湖畔（ドイツ領）にある原兄姉宅で家庭集会をします。その時は、スイスからドイツに抜けるシャフハウゼンという国境を通ります。10年間のうち何回この国境を通過したことでしょう。

ある時、その国境で止められ、検問を受けました。トランクの中のスーツケースまで開けられての入念な検査でした。検査が終ったとき、その警官が私に「あなたは確か牧師さんですよね。」と言いました。何度も通っているので、私を覚えていたようです（私は覚えていなかったのですが・・・）。その時、私は「牧師だと分かっていたら黙って通してくれたらよいのに！」と少し腹立たしくなりました。でも、車を走らせながら思いました。牧師だからこそ、その名に隠れて悪事を働くことがあり得ると疑ったのだろうと。

日本での出来事を思い出しました。クリスマスが近づいていたころ、隣町の教会に届け物をするために子供を乗せて車を走らせていました。子供と話しているうちに交差点の赤信号を見落として通過してしまいました。すると、交差点に止まっていたパトカーがサイレンを鳴らして追いかけてきて停車を命じられました。

私は「かくかく、しかじかの理由で隣町に行く途中です。子供と話していて信号を見落としました。申し訳ありませんでした。」すると警官が「牧師さんですか。クリスマスだから大目に見ましょう。」今では決してあり得ないことでしょう。私も決してしてはいけない危険行為でした。でも・・・嬉しかった！

皆さん、21年間の主にある交わりと、共に労することが赦されたこと、本当に感謝いたします。この続きは、もし主許し給わば、日本からお送りしたいと思います。皆さん、お元気で！

田辺正隆牧師、みや子先生へ

贈ることばの花束

永遠に繋がる事

田辺先生、みや子先生。２１年間…、ですか。改めて主のなさる不思議を思い、この間色々おありだったことでしょうけれども、無事主の召命を完了して帰国なされる恵みに只々主のすばらしさをほめたたえます。

デュッセルドルフ、スイス・フランクフルトのみならずバードリーベンゼラーやヨーロッパキリスト者の集いに至るまで、広く欧州全体の為に主が先生ご夫妻をお立て下さって、信徒・教職の為にどれ程のお働きを頂いたかを思う時、「よくやった！忠実な僕だ。」とのお言葉がご夫妻に今かけられているように感じております。

どうぞ益々ご体調にお気をつけていただきまして、帰国後の奥多摩福音の家でのご奉仕に（主がお入用とおっしゃる限り）お元気でお仕え下さい。

スイスの皆さん。フランクフルトはじめヨーロッパの皆さん。田辺先生ご夫妻を祈りをもって日本へ送り返してくださる皆様は幸せです。目には見えなくても先生たちと永遠につながる事ができるのですから。別れの寂しさ以上にこれから主がなさってくださる新しいことへの期待をもって愛知県よりご挨拶申し上げます。

愛知県、春日井福音自由教会
伊藤和人

僕が救いに導かれる為に

約5年前、ドイツで出会った日本人のクリスチャンの友人に連れられ、スイス日本語福音キリスト教会に集うようになり、田辺牧師ご夫妻に出会いました。

未信者だった私は、田辺先生がとき明かす聖書の言葉に夢中になり、聖書のことをもっともっと知りたくて、礼拝に参加するだけでなく、家庭集会にも積極的に参加するようになりました。僕が疑問に思っていることがあると、先生は僕の話をよく聞いてくれ、聖書に基づいて先生の考えを話してくれました。そして、「また何か質問があったら、何でも聞いてください」と優しく言ってくださったことを覚えています。先生のお宅を訪問した時は、美味しい美味しいラクレットをご馳走してくださいました。みや子先生が、信仰や教会、聖書について、また、先生ご夫妻の出会いや結婚生活について、ユーモアも含めながら勉強になる話をしてくださったのを覚えています。

僕が救い導かれるために、田辺牧師ご夫妻の働きは欠かせないものとして神様が計画してくださっていました。神様に、また、田辺牧師ご夫妻に心から感謝いたします。

宮城県、オアシスチャペル利府キリスト教会
菊地祥彦

海外邦人宣教の先輩

田辺先生ご夫妻には、ヨーロッパキリスト者の集いでしかお会いしたことがないのですが、ドイツでのお働き、また、国境を越えてのスイスでのお働きのことなどを少しだけ伺う機会がありました。その時に心に思い浮かんだ御言葉は、マタイ18:12-14です。

日本語を理解する人が一人しかいない所にでも、そこに福音を届けにいかれるその姿にとても感銘を受け、励まされ、また大きなチャレンジを受けたのを覚えています。海外邦人宣教の先輩として心からそのお働きを感謝するとともに、先生ご夫妻が始められた主の良い働きが、これからも大いに祝福され前進することをお祈りしています。

イザヤ52:7「良い知らせを伝える者の足は山々の上にあって、なんと美しいことよ。平和を告げ知らせ、幸いな良い知らせを伝え、救いを告げ知らせ、「あなたの神が王となる。」とシオンに言う者の足は。」

米国カリフォルニア州、CFN
清水摂

人生最大の喜び

田辺先生、みや子先生、本当に日本へ本帰国されてしまうのですね、実感が湧きません。長い間お疲れ様でした。みや子先生に学びを受け、田辺牧師のもとで洗礼を受けることができたのは、人生最大の喜びです。その後信仰がふらついている私をいつも温かく見守ってくださり、祈ってくださったことも心より感謝しています。日本に戻られてもどうかお元気で！！

中東、ドバイ家庭集会
ブリュック 留理子

スイスJEGの修養会で自然とゲームを楽しまれるご夫妻（ベルナーオーバーランド、2007）

花咲いた運転の才能

田辺牧師ご夫妻の、ドイツを中心にヨーロッパでの働きを21年間見守り続けてこられた神様に心より感謝を捧げます。ほんとうに先生方は、体力の限り牧会、宣教に文字通り走り回ってこられたと思います。

いったい何十万キロ、運転されたでしょうか。その行く先々に福音のみことばを届けてこられました。福音宅配便を毎日、毎週、毎月、毎年、21年以上続けてこられ、そして、私もその間に救われた者の１人です。その兄弟姉妹それぞれが、この時期、救われた当時を思いだしておられることでしょう。

一度、ダルムシュタットのお宅からスイスへ、みや子先生運転の車に乗せていただいたことがありました。みや子先生は運転の才能がドイツで花開き、アウトバーンをスイスイと、もう100年乗ってるかのように走っておられました。スイスでの礼拝からの帰りに、なぜか（私が怪しかったんでしょうか）国境で車を脇へ寄せられ、荷物検査がありました。出てくるものは、私たちの身の回り品以外は聖書、聖書、それも開いてパラパラめくり、イヤハヤ税関のおじさんは何を捜していたのでしょうか。どうか神様を見つけてくださいと、とっさに言えなかったのは残念でした。

田辺先生、みや子先生、たくさんの人々の数え切れない思い出を胸にご帰国です。それらが、いつまでも先生方の心のなかで暖かく明るく輝いていますように願ってやみません。本当にありがとうございました。全てを感謝しつつ

チェコ・コビリシ教会
黒田閑恵

沢山のみことばが

私はカトリックの洗礼を受けて、日本語での交わりをもとめてシュトゥットッガルトの聖書の会に参加したとき、はじめて田辺先生にお会いしましました。

佐々木さんがボーデン湖の方に住んでいるのならと、原さんご夫妻を紹介され、それ以来メアスブルク集会の常連となり、吹雪の中でも参加していました。かれこれ13年になります。そして、今は時々主人とスイス日本語福音キリスト教会の礼拝に参加させていただくようになりました。

たくさんの賛美歌とみことばが飛び出してくるみや子先生のお人柄や、正隆先生の暖かいお心、本当に長い間ことばに尽くせないくらいいろいろお世話になりました。この出会いを作ってくださった主を賛美いたします。

シュトゥットガルト日本語教会
佐々木千恵子

浦島太郎となった田辺先生

時々、思い出しては一人で笑ってしまうのですが大分前でしたが〔何時、どこでかは、はっきりと覚えていません〕夏季のヨーロッパの集いで田辺先生が夢の中で浦島太郎になり、竜宮城に行って帰ってきたら田辺先生はそのままでみや子先生が老人になっていたと言う話。皆さん会場で大笑いしましたが、未だ覚えている方もいらっしゃるかも知れません。後でみや子先生に叱られたのではと田辺先生の事が心配になった事でした。

田辺先生は普段は静かな方ですが冗談がお上手で、ハラハラする事もありますが他人を笑わせる技を持っていらっしゃいます。これも主からの賜物でしょうか。

フランクフルト日本語福音キリスト教会
ホフマン昌江

スイス日本語福音キリスト教会から

田辺先生方が川崎市生田教会を牧会なさっていた1966年頃、私たちはすぐ隣の中野島のリーベンゼラー本部に住んでいました。将来、スイスで、しかも同じ教会で共に奉仕をするなどとは夢にも思いませんでした。それから、30年以上経って、先生方が長い間無牧だったウスターの日本語教会に来てくださったのは、私にとって、それはそれは感謝なことでした。日本でのリーベンゼラー伝道団のときを思い起こして大変懐かしく思ったものでした。

先生のお言葉使いに私は慣れていたものですから、説教の通訳の折りは大変助かりました。その時の先生の忍耐を思うと感謝で一杯です。これから、先生方は再びリーベンゼラー宣教団につながって”奥多摩福音の家”内にある奥多摩教会でご奉仕されますが、神様の導きと祝福そして、ご健康を心からお祈りいたします。

ルツ・クンツ元宣教師

行動をもって教えられた先生

田辺先生、みや子先生、２１年にわたるヨーロッパでの献身的なご奉仕、本当にどうもありがとうございました。主の愛に気づかされながら、そこから先へ進む道の分からなかった私をフランクフルト教会に温かく迎えてくださり、洗礼へと導いてくださったこと、私に確信を持たせて私たち家族をスイスへと送り出してくださったこと、これまでの学びとお交わりに心から感謝いたします。

田辺先生ご夫妻を通して、いつも主に拠り頼み、そして恐れずに生きることを言葉としてだけでなく、行動をもって教えていただきました。娘も私もみや子先生と一緒に賛美をするのが大好きでした。これからは遠くなりますが、時空を越える信仰で結ばれた兄弟姉妹として、共に歩んでいきましょう。先生ご夫妻のご健康と新しい土地でのご活躍を心よりお祈りしております。そしてまた元気にお会いできる日を家族ともども楽しみにしています。（箴言3:5、イザヤ書43:1-5）

ギュンタート美紀

忘れられないエピソード

私は1995年にスイスへ来て、1996年1月に初めてスイス日本語教会の礼拝に出席した時、メッセンジャーとしてドイツから来られていたのが田辺牧師で、それがご夫妻との初めての出会いでした。みや子先生は私と同郷で群馬の出身、すぐに家族のような親しみを覚えました。そして1999年から田辺先生は10年間、スイス日本語教会の専任牧師としてご奉仕して下さいました。

私が一番忘れられないエピソードは、娘を出産した時の事です。出産後５日間の入院を経て退院する当日、新生児の健康診断が行われました。あと数時間後に退院という時に、医師が私の部屋へやって来て「検査機の故障か別の問題があるのか分からないが、聴力の検査が何度やっても出来なかった。もしかしたらお子さんの耳は聴こえないのかもしれません。」と言われました。主人と二人で

ショックのあまり打ちひしがれているところに入って来て下さったのが、田辺先生ご夫妻でした。すぐに事情をお話すると、私達と娘のために「主の御心がなりますように」と祈って下さいました。娘は私達のものではなく、神様から与えられた存在であり、どんな子どもであっても受け入れて、主に感謝して生きて行こうと示されました。幸い検査は誤診で、娘の聴力には何の問題もありませんでしたが、私達は神様を通し、田辺牧師ご夫妻の祈りと言葉によって、大切な事を教えられました。あの時神様が先生ご夫妻を私達のもとへ送って下さった事は忘れられません。主への祈りと励ましを下さって、本当に有難うございました。これからもお二人のご活躍を期待しております。どうかいつまでもお元気でお過ごし下さい。

ヘス明美

みことばと賛美の大切さ

2005年3月、洗礼者リストに名前を挙げられてしまい、迷いつつも翌月4月24日に受洗。その後、月2回の礼拝とウスター集会で、正隆先生より丁寧懇切に聖書を紐解いていただきながら、みことばを深く学ぶことができました。

みや子先生からは、みととばと賛美の大切さ、そして子どもたちへの聖書のお話しを繰り返し学びました。しかし、その大切さに気付くまでにはとても時間がかかりましたが、撒かれた種は確実に私の心の中で育っています。今では、大それたことに、ＣＳで子供たちにみことばの大切さを導くご奉仕をさせていただくようになりました。その基礎は、田辺先生ご夫妻の生きる姿勢そのものから成り立っています。

感謝しつつ、主の御名を崇めます。祝福を祈りつつ

本園万子

いつまでも心の引き出しに

田辺牧師ご夫妻には十年以上キリストの世界に触れる機会を与えて下さり大変感謝しています。原家での家庭集会とUster礼拝は、当初見知らぬ世界に逼惱見解で気張っていた私に、学校教育の道徳観念の習得や人格形成の完結を目指すのみならず本来の生きる意義の根本的なところを教えてもらうオアシスでした。加齢とともに性格に丸みを帯び本来大切なものはみえてくるものの、先生のお蔭でそのテンポが速まる所謂人生の転機だったといっても過言では無いでしょう。

それまで触れる事の無かったキリストの存在に目覚めなければ、世の現象が韜晦し不安定に振り回されていたと思います。先生との思い出はいつまでも心の引き出しにいれています。ときどきそれを開けて、迷うことの無い人生の針路を示唆してもらえる安心感で、これからもどっぷりキリストの世界に入り込んでいきたいです。Hoffnung, Glaube und Liebeですね。

コイ和子

懐かしい想い出と安心感

田辺正隆先生・みや子先生ご夫妻のヨーロッパ在留日本人伝道の２１年間のご奉仕を終えられるにあたり、先生ご夫妻との不思議な巡り合わせについてお証しをさせていただきます。

私の父Hans Meyerが、若い宣教師として来日した1954年頃、田辺正隆先生はまだ大学生でした。当時Liebenzeller Missionの在日宣教師は、日本人学生に英語やドイツ語を教えたり福音を伝えたりしていたのです。田辺先生もその生徒の一人で、アーサー・クンツ師（ルツ先生の故ご夫君）や同労者であった私の父は教える側でした。

左から２人目が田辺先生、その右は父のハンス　1955

数年後、田辺先生は信仰に導かれて献身され、神学校で学ばれました。その後、リーベンゼラー日本伝道会（当時のLiebenzeller Missionの日本側組織）の牧師となられたのです。田辺先生が牧師として活躍し始められた頃、私はまだ５歳の子供でしたが（1965年）、リーベンゼラーの群れの修養会場として購入された”奥多摩福音の家”の開館式が執り行われたことを未だによく覚えています。

それから２０年後、家内のルツと私が若い宣教師として日本に還ることになった1985年、田辺先生は当時の「リーベンゼラー・キリスト教会連合」の責任者の一人として活躍されており、私たちにとっては模範的な大先輩でした。そして、本来ならば、定年退職のことなどを考え始める６０歳を超えられた頃、何と先生ご夫妻は、ヨーロッパへ渡り、日本人伝道に心血を注ぐようになられたのです。このことにより先生方は、私たちにさらなる模範を示して下さいました。

５歳のわたし

初期修養会、奥多摩　1965

２０１２年から、私はヨーロッパ在留日本人のための福音宣教奉仕に導かれるようになり、田辺先生からは幾度も助言を授かり、深いお交わりや祈りの時が与えられました。それら全てが私にとっては忘れられない非常に貴重な思い出となっています。そうして2014年1月、田辺先生が10年間牧会をされたスイス日本語福音キリスト教会の後任牧師として、私は先生の按手を受け、無事着任する運びとなりました。

最後になりますが、先生ご夫妻が今後ご奉仕される奥多摩福音キリスト教会は、私たちが以前奉仕していた“奥多摩福音の家“新館２階で礼拝を持たれているのです。何という神様のご配慮でしょう。懐かしい思い出と共に安心感に満ちた喜びが沸き上がってきます。どうか、主なる神様が先生ご夫妻を豊かに用いて、祝福してくださるようにお祈りいたします。

詩篇23：6を持ってお別れの挨拶にさせていただきたいと思います。

「まことに、私のいのちの日の限り、いつくしみと恵みとが、私を追って来るでしょう。私は、いつまでも、主の家に住まいましょう。」

マルチン・マイヤー

スイスJEG牧師就任式 2014

被災地からの報告

東日本大震災から４年

被災地に主の恵みと愛を！

宮城県はオアシスチャペル
利府キリスト教会の
菊地祥彦兄から

先日、宮城県・東松島市にある仮設住宅を訪問した際、自治会長さんに現状についてお話を伺いました。災害公営住宅の建設が進み、仮設住宅から移る世帯が増えてきているものの、未だに頭を抱えてしまうような問題が様々あることを嘆いておられました。

そこの仮設住宅では約400世帯が暮らしています。災害公営住宅の建設は2016年3月までに終わる予定だそうですが、自立が困難な人々が引き続き仮設住宅に取り残されることが予想されるそうです。年金暮らしのご高齢の方々、または、低所得者の方々は、自分の家を建てるお金も災害公営住宅を借りるお金もなく、仮設住宅以外の選択肢がありません。その東松島市内でで、500世帯以上がそのような状況だそうです。それ以外にも仮設住宅には様々な問題があります。高齢者の入居割合が増えていること（宮城県では43.8%が65歳以上で、独居高齢者が増加している）、孤独死や労災死が増えていること（どちらも震災以降２０１４年が最多）など…。自治会長さんの話を聞き、僕の心には「やっぱり震災はまだ終わっていないんだ！」という思いが込み上げてきました。

仮設住宅の集会所で話す自治会長さん

話を終え仮設住宅を出るとき、支援活動で何度かお会いした40代ほどの女性が「私たちが公営住宅に移ってからも、みなさん（ボランティアの方々）で続けて来てくださいね！」と言われました。その方は津波で住まいを流され、そしてお母様を亡くされた方でした。その日も涙ながらに仮設住宅での暮らしや将来への不安について話してくださいました。私たちは何度もこの仮設住宅を訪問し、ゴスペルコンサートをしたり、お茶飲み会をしたり、そこで行われるイベントのお手伝いなどをしてきましたが、震災から時間が経つにつれ、ボランティアが減少しています。そんな中、私たちが継続的に来てくれていることを彼女は嬉しく思っているのだと思います。

私たちが継続的に足を運べる理由は、地元に置かれた教会だからです。大きな支援はできませんが、継続的に足を運び、関係を育み、その時その時のニーズを聞いて支援をすることができます。私たちだけでなく、被災地域内、もしくはその近くに置かれたたくさんの地元の教会が今も支援活動を続けています。しかし、東北の教会は小さな教会ばかりです。教会形成と支援活動を両立させるには、教会自体が建て上げられる必要があります。これまでのようなキリスト教系支援団体の協力、サポートはもうほとんどありません。そのよう中で、支援活動を継続し、被災地に福音を届けるには、教会形成にも力を注がなければなりません。

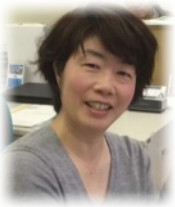
私が属するオアシスチャペル利府キリスト教会は、被災沿岸部の近くにあり、震災の2日後から支援活動を始めました。実は、教会で運営するキャンプ場のメインビルティングが全壊し、通常営業ができなくなったのですが、とにかく目の前にいる被災者の方々を無視するわけにはいかず、キャンプ場のことは後回しにして支援活動に力を注いできました。その間、キャンプ場の再建に手をつけられませんでしたが、キャンプ場の残ったビルディングをボランティアの宿泊施設、また、支援物資の倉庫として提供し、延べ人数で1万5千人以上をキャンプ場から派遣することができました。

私たちの教会を通してさらに周辺地域や被災地に恵みが流れていくため、現在、キャンプ場があった場所の再建に取り組んでいます。宮城県の沿岸沿いの地域に隣接していることを活かし、地域の方々、また、被災者の方々がそこでリラックスし、友人や教会のメンバーとの交わりの機会をもつことができるカフェを建設することを願っています（詳しいことはこちらのWebサイト http://oasis-center.com/ または Youtubeの動画 https://www.youtube.com/watch?v=nm3P8NoeO9w&feature=youtu.be をご覧ください）。お祈りいただければ幸いです。

これからの被災地のことを考えると、やはりそこに置かれている教会がどれだけ被災地に主の恵みと愛を流せていけるかが重要だと思います。ぜひこれからも東北の諸教会が、主によって強められ、祝福の基となることができるようにお祈りください。

主の主権と支配の中で

福島市は二本松バプテスト教会の
阿部恩（めぐみ）姉から



わが子よ、充分ではないのか。あなたにとってわたしは、充分ではないのか。（中略）あなたを求めている、このわたしだけでは、充分ではないのか。」（エミー・カーマイケル著「御翼の陰に隠されて」いのちのことば社p140より）この世の人生を歩んでいくとき、困難は必ずやってきます。それは「人間関係」であったり、「病気」であったり、「震災」であったりします。そんなとき、その「困難」は、すべてが主の御手の中にあり、主の主権と支配の中にある、と受けとめることができたとき、試練の中で心が平安に守られます。これが、私たちクリスチャンの特権です。震災のときにハッと思わされたことは、いかに今までいろいろなものを欲しがりすぎていたか、ということ、そして、本当に必要なものは多くない、ということでした。震災前と変わらない生活が送れるようになり、私にとっては「震災」以上に困難な日々の出来事がある中で、「はい、主よ、あなただけで充分です。」と、繰り返し、主の前に静かに立ち止まる、そんな毎日を過ごしています。

誰かに愛されたいよ。寂しいなあ。

気仙沼市は愛隣印刷社の
阿部克衛兄から

主のみ名を賛美致します。 スイス日本語福音キリスト教会の皆様におかれましてはますます主の恵みの内にお過ごしのことと存じます。2011年の東日本大震災から間もなく4年が過ぎようとしています。3.11の大震災の記憶は私たち被災者にはまだ昨日の事のように思われます。

震災直後から皆様のお祈り、犠牲を伴ったボランティア活動、また多大なご支援を頂きましたことを心から感謝申し上げます。絶望的な状態から主の恵みと皆様のご厚意により復活出来ました事を生涯忘れません。私たち家族の津波体験の証を本にして「箱舟の中の家族たち」を出版致しましたところ反響を呼び多くの方に読んでいただきました。この本は私たち家族にとっても大震災の記憶を代々伝えて行く貴重な記録になると思います。

現在、被災地気仙沼は復興のための土盛り、嵩上げのために陸前高田市からダンプで200万台分の土を運ぶと聞いています。土砂運搬のトラックで道路が渋滞しております。先日テレビの全国ニュースで報道された復興住宅は私たちの地区の被災し廃校になった小学校跡地に165世帯が入居する11階と6階建ての集合住宅です。入居者の喜びの様子が映し出された明るいニュースでした。ここは南郷3区という新しい行政区になり近所に賑わいが出て来ると思います。一方、仮設住宅で　将来の先が見えず、ひきこもりや不安を抱く人々も多く居られ心のケアが求められています。仮設にボランティア活動をしている方の体験談を聞きました。あるお年寄りの方に「おれを愛している人がいるのかなあ、誰かに愛されたいよ。寂しいなあ。」と言われ、イエス様のことをお話し励ましたそうです。被災地ではこのような人が大勢いることを覚えてこれからもお祈り下さい。

壊滅した気仙沼バプテスト教会

被災した小学校跡地が災害公営住宅に

津波で打ち上げられた共徳丸が撤去された場所

市内の商店街は再生に向け気仙沼内湾商店街協同組合を結成し中小企業省の認定を受け、事業費17億円の内4分の3のグループ補助金受け、仮設商店街「紫市場」などの31店舗が入居することになり、今年の夏に着工していよいよ復興の姿が目に見える形になっています。気仙沼市の基幹産業の水産関係の事業者は設備が整い生産体制が出来ても販路の確保がままならない状態です。見本市や物産展などをしてそれぞれ企業努力を続けています。

弊社でも市内の得意先が復活せず震災前のような仕事は望めない状態です。自社企画の製品を開発しながらこの苦境を乗り切るために祈りつつ頑張っております。主の御用に役立つ福音文書出版センターとしての大きなビジョンが実現出来る様に努力しながら仕事に励んで参りますのでご加祷下さいますよう心からお願い致します。また、弊社では「3.11を忘れない」をテーマに大震災の記憶が薄れないようにいろいろな情報発信をしていきたいと思っております。

津波が襲上して被災した小学校のそばを流れる大川

私たちは東日本大震災で大きなダメージを受けましたが、皆様との「出会い」と「絆」は神様からの 大きな慰めと恵みでした。

特に、スイス日本語福音キリスト教会からの創立20周年記念誌印刷の依頼は、スイスからの受注という事で私たちに勇気と喜びを与えてくれました。記念誌を手に取って、写真集の日本語教会の皆様と現地のクリスチャンの方々の和やかなお交わりの姿は天国の前味のような思いがいたします。また、震災支援のために気仙沼に来られた、金子進先生や芳賀先生ご夫妻の写真を拝見して貴教会が身近に感じられました。

これを人生の大きな宝物として大事にして参りたいと思います。機会があれば復興した気仙沼を訪ねて頂き再会の恵みに預かれれば幸いです。